

委員評価一覧 ～評価点一覧

資料1

	評価点				
	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5
川瀬 博	5	5	5	3	3
堂前 雅史	3	3	3	5	3
根本 志保子	1	5	2	3	3
鳴海 大典	3	3	1	3	3
高田 秀重	3	5	3	5	3
宮下 徹	3	3	1	3	3
佐藤 正志	-	-	-	-	-
大久保 雅司	4	3	3	5	3
大庭 洋平	1	5	3	5	5
渋谷 弘子	3	5	3	3	5
坂本 仁子	3	5	3	3	3
大平 惇	5	3	3	5	1
藤田 史恵	5	5	3	5	3
宿野部 史貢	1	5	3	3	5
石田 恵美	3	3	3	5	5
平均	3.1	4.1	2.8	4.0	3.4

基本目標1	地域で取り組む地球温暖化の防止	評価点	3.1	
評価理由	川瀬委員	市民一人あたりのエネルギー使用量が明確となり、地球温暖化に対する市民レベルでの努力が明らかとなった。	川瀬委員	「みどりのカーテン」事業については、設置場所に関する啓発活動について力を注いでほしい。
	堂前委員	特別緑地保全地区指定拡大はめざましい効果をあげ、再生可能エネルギー消費割合、透水性舗装、路線バス利用環境ではそれなりの前進をしているが、二酸化炭素排出量、マイカー使用を控える市民割合について目標達成が遠い。	堂前委員	マイカー使用を控える市民の割合を増やすのには、路線バス利用をもっと便利にすることや、自転車利用環境の整備が前提のはず。乗り継ぎ拠点の整備の他にも、公共交通機関利用者を増やす工夫が必要。
	根本委員	<u>再生エネルギー普及やマイカー使用抑制が達成目標となっているが、そのための重点事業がない。再エネについては啓発のみとなっています。</u>	根本委員	・2014年まで実施していた再エネ補助金を復活させるのは難しいでしょうか？ ・町田市は公共機関でも利用しやすい施設が各駅にあります。市民にもっとコンパクトシティの概念を広く告知してはいかがでしょうか。またミニバスの運営の拡大は難しいですか？
	鳴海委員	大きな底上げにつなげるためには、元々のエコマニアだけではなく、広く一般の方を巻き込むような政策や事業実施が必要ですが、そのような活動が積極的に展開されているようには読み取れません(目標1だけではなく、全般的なことですが)。	鳴海委員	・指標の変化の因果関係を施策導入と絡めて考察されるとよりわかりやすい資料になるかと思います(目標1だけではなく、全般的なことですが)。 ・参考資料2はあくまでも2017年度の進捗状況をまとめた資料であり、この資料に掲載する進捗度(☆マーク)は年度内の進捗状況を表現し、資料3と整合させた方が誤解が少ないと思います。
	高田委員	各事業の実施状況は評価できる。しかし、各事業の温暖化防止、低炭素社会への転換への貢献が若干不明である。再生可能エネルギーによる電力利用割合が極端に低い。進捗状況の資料の作り方の問題だとは思いますが、「その他の施策」の方に、貢献の大きいと考えられる策が書いてあり、評価しにくい点は残念である。	高田委員	再生可能エネルギーの普及に向けた大胆な施策を考えられてはいかがだろうか？個人住宅への太陽光発電装置の設置促進のための助成金など。
	宮下委員	重点項目、その他の項目において一定の進み具合は評価出来るが、達成目標の数値的なものはまだまだではないか。今後は多方面からのアプローチが必要。市民に意識を定着させる方策の検討をお願いしたい。	宮下委員	地球温暖化に対する市民理解醸成は、現状でのテーマ設定ではなかなか進まないと考える。効果的な浸透にはすべての年齢層へのアプローチが必要である。そのためには学校教育や地域の活動(町内会・市民サークル等)における恒常的な浸透啓発活動を進めて欲しい
	大久保委員	・【1】わたしのエコ宣言については、CO2削減の見える化を実施しており、良い取り組みであると思います。 ・【6】エコドライブの周知、普及・啓発の実施について、自動車からの温室効果ガス抑制にかかる普及啓発として良い取り組みであると思います。 ・その他の施策“(2)持続可能なエネルギー利用への転換を図ります～②家庭における取り組みを促進します”について、取り組み事項であります家庭用への省エネ機器の導入支援は、省CO2の実現に大変有効であると考えます。 ・その他の施策“(2)持続可能なエネルギー利用への転換を図ります～①公共施設における取り組みを進めます”におけるLED照明導入は省エネルギーかつ長寿命な設備として有効な取り組みとします。	大久保委員	「わたしのエコ宣言」については、町田市役所のホームページから直接登録できるなど利便性をもっと良くしてはいかがでしょうか。 ・太陽光発電はある程度普及しておりますので、今後は太陽熱利用システムや蓄熱システムの普及拡大に取り組んだらいかがでしょうか。 ・電気自動車の普及は各施策の実現に向けて大変有効であると思いますが、今後も普及促進が必要であると考えます(災害時には蓄電池としても有効利用可)。【5】水素ステーションの誘致と同様に、電気自動車の普及に向けて電気自動車充電施設の拡大に向けた施策が必要であると考えます。
	大庭委員	地球温暖化防止への取り組みが思うようには進んでいないと感じる。市民一人あたりの二酸化炭素排出量の削減、マイカー使用をできるだけ控える市民の割合など達成状況を見ても目標達成には程遠いと感じる。	提案	・ヒートポンプを利用しているエアコンやエコキュートは、少ない投入エネルギーで空気中などから熱をかき集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術を活用しておりますので、大切なエネルギーを有効に使えますし、CO2排出量も大幅に削減できることから、地球環境保全にも貢献します。ヒートポンプ(エコキュート)の導入支援、情報提供は施策実現に向けて有効であると考えます。
	渋谷委員	【3】歩道が透水性舗装の整備、初めて知って大変良い。 【7】二酸化炭素の吸収源となる緑地保全が進んでいる感謝。	渋谷委員	・大型街路灯の省エネ型照明器具への交換や公園灯のLED化へ向けた調査を進めていますが、小型街路灯のLED化(自治会や商店街等街路灯への助成含む)については、どのようにお考えでしょうか。町田駅前商店会の街路灯は16基がLED化されていますが、他行政に比べ少なく感じます。
	坂本委員	東日本大震災以降、原子力の発電が停止し、化石燃料による発電が増加している中で、市内でマイカーをひかえたりして【2】を進めている。しかし、これはもっと強化してもよいと思います。	坂本委員	「私のエコ宣言」レジ袋削減、レジ袋は便利だが2回に1回はレジ袋NOと言おう。エコバッグ・ループ付エコふろしきその他で。
	大平委員	進捗が遅れているのは、「みどりのカーテン」と「水素ステーション」に関する事業のみであるので、全体的には取り組みが順調に進んでいると判断できます。	坂本委員	コストにもよるが、水素ステーションの誘致や場所があれば風力発電の誘致を進められるとよいと思います。
	藤田委員	<u>達成目標①は2011年3月以降、化石燃料使用による発電増加のため二酸化炭素排出量の削減が難しくなっているが、市民の一人あたりのエネルギー消費量が減少傾向にあるのは評価できると思います。</u> 達成目標②は2016年度まで実施していた太陽光発電等の設置補助事業が今は行われていないため、再生可能エネルギーによる電力利用割合を目標値に近づけるのは今までもより厳しくなりそうだと思います。その他の施策の取り組み結果から全体として評価できると判断しました。	大平委員	今後、多くの市民が自らの問題として認識し、主体的に参画するような市民啓発の方法を開発してはどうでしょうか。また事業者には、各社ごとに行動計画を立て、進捗状況を市に報告することを義務づけてはいかがでしょうか。
	宿野部委員	NHK的優等生的で平凡。原発再稼働の重要性が説明されてない、言いにくい、書きにくい。	藤田委員	達成目標③の提案としてカーシェアのように共用できる自転車を市内の公共施設の駐輪場間で利用できるようにし、使用状況等は定期的に各公共施設に協力していただき把握します。これを試験的に一部で実施し、利用者が多ければ、さらに範囲と規模を広げ、マイカー使用を控える習慣を促進するのはどうでしょうか。
			宿野部委員	本当に地球は温暖化してるの？スライドを使って具体的説明を希望します。
			石田委員	水素ステーション誘致以外の市の取り組みは進んでいるようですが、マイカー使用をできるだけ控える市民の割合が毎年減少しているなどの課題があり、市民の環境配慮行動の推進に努めていただきたいです。

基本目標2		自然環境と歴史的文化的環境の保全	評価点 4.1		
評価理由	川瀬委員	<u>生きものに関心のある市民の割合が大きく増加している。「生きものストップ」の設置については、「設置」より「あり方」の検討を重ねており、その努力を多とする。</u>		堂前委員	町田市北部丘陵活性化計画アクションプランとの連携を方針の中に織り込んだほうがいいのではないかと。水辺の魅力発信のイベントは、町田市内のいろいろな場所でやっている市民団体や大学と連携して、共催してはどうか。
	堂前委員	安定的に確保された緑地割合が増えていない。市民の満足度や関心も規準年に比べれば改善しているが不安定に見える。一方で、生物多様性情報拠点機能については方針の練り直しの段階になっている。水辺の魅力の発信については目標値を達成しているものの、忠生公園に限らず、もっと広くイベントが実施されたい。		根本委員	今後も引き続き応援します。
	根本委員	<u>水辺との触れあいに満足する市民の割合、および生きものに関心のある市民の割合がかなり増えている。自然に近い町田市の特徴が生かされており、また各種イベントの効果もあると思います。</u>		鳴海委員	目標1と同じく
	鳴海委員	目標1と同じく		高田委員	「生きものストップ」という名称は誤解を生むので、変更する方がよい。生きものスポット？
	高田委員	<u>緑の豊かな地域特性を活かした多様な施策が実施されており、進捗状況も評価できる。</u>		宮下委員	大きな部分(公園等)の整備保全も良いが身近な街路樹や里山整備(薬師池公園の森林や北部丘陵の荒れた原野林等)にもっと力を入れるべきである。綺麗な街作りは「こころの癒し」に基本になる。
	宮下委員	<u>町田市に住む人々は都心部には無い自然環境が残る町田市の良さを理解していると思う。それを幅広く伝える活動は達成目標、重点事業から評価出来ると思う。しかしながら一方では里山の保全や緑地帯(市内道路の街路樹等の整備)については、まだまだ他市(相模原等)と比べて大きく劣っていると思う。その辺を今後一考願いたい。</u>		大久保委員	・その他の施策「(5)歴史的文化的環境を守ります」については、無電柱化等を含めた総合的な景観整備作りが必要であると考えます。
	大久保委員	自然と都市の共存、自然と文化に彩られたまち作りを目指しており、引き続き活動の継続をお願いします。		大庭委員	自然と触れ合う企画などが町田市の北部に集中しているように感じるので、町田市の南部でもたくさんの企画を行ってほしい。
	大庭委員	自然を感じる場所や企画の拠点などが目に見えてわかる。		坂本委員	【13】をもっと強化してはいかがでしょうか。
	渋谷委員	<u>北部丘陵の整備上小山田町田中谷戸、下小山田東谷戸などの里山保全の取組、手入れの届かない山林の再生保全、後世に残せる大切な事業として評価します。</u>		大平委員	「緑地保全」は重要ですが、都市化の流れと私有財産制限の困難さから、市による公園の確保と整備が中心にならざるを得ないと思います。
	坂本委員	緑地保全基金等を活用し、緑地確保の取組みを進めてもらいたい。水辺とのふれあい等、重点事業10は評価できると思います。		藤田委員	町田市の生き物や自然にさらに関心を持ってもらうために自分たちの身近な公園などに気軽に立ち寄れるように、公園の駐車場を以前のように無料化に戻してはどうでしょうか。訪れる人が増え意識も向上し基本目標2の目標達成に寄与することになると思います。
	大平委員	「生物多様性情報」と「観光交流拠点」については、十分な結果を得られなかったことにはそれなりの理由があり、一方「水辺の魅力」と「北部丘陵」については目標以上の達成であったことから、総じて普通と評価できます。		宿野部委員	冬の里山野鳥観察会、小野路ツアー等のイベント数を増やす事。基本はフィールドワーク！小生も参加したいと思いました。
	藤田委員	【9】水辺の魅力の発信と【11】北部丘陵の整備は年度目標を達成しており、アンケートの達成目標2-③で全体の3/4が生き物に関心あるということなので評価できると思います。また、基本目標②は2021年度までに目標達成できそうだと感じています。			
	宿野部委員	文字、グラフ見やすく良いです。【10】「生きものストップ(仮)」の設置についての2017年度の実施内容に同感共感します。			
	石田委員	<u>生きものに関心のある市民の割合の増加など取組みが進んでいると思いますが、水辺の魅力の発信が予定どおり進んでいるにもかかわらず、水辺とのふれあいに満足している市民の割合が2016年度より減少しているのが気になります。</u>			

町田 生きもの 共生 プラン	川瀬委員	情報拠点のあり方を検討する中で、公設民営方式だけでなく、民設公営方式も検討してほしい。
	堂前委員	情報拠点機能の充実が緑地や水辺を管理している市民団体と協働して生息している生物等の紹介プレート設置から始めてみてはどうか(乱獲防止との兼ね合いがあるが)。生物資源利用促進は、活用している団体の収入になるような事業になるのが理想。ビオトープ作庭イベントは学校を拠点にしてはどうか。
	鳴海委員	上記と同じような内容ですが、何らかの情報をネットに公開するだけでは元々興味のあるマニアしか閲覧しません。元々興味の無い市民が取り組みに関心を持つためには、駅などの人が集まる場所での情報拠点設置やチラシ配布など、攻めの姿勢が必要のように思います。
	高田委員	農業者との協働の企画をもっと増やしてもよいように思います。エコ農産物認証申請者が16名というのは宣伝不足のように思われる。もっと働きかけを強めて申請者を増やすべき企画だと思います。
	宮下委員	地道な活動が少しずつ成果につながっていると考える。今後はもっと親を巻き込んだ活動を進めて欲しい。 生きものとの共存共栄には子供たちに自然と多く触れ合える場や機会を造るしかないと思う。
	大久保委員	環境を継続的に維持する取り組みは、 <u>地域のサステナブルな発展のために重要な取り組みである</u> と思います。
	大庭委員	<u>自然と触れ合える環境が増えているように感じる。</u>
	渋谷委員	ツバメの営巣環境が残っている事に感激。子供達がかかわる事業が沢山有ることを知りました。私は忠生がにやりに良く行きます。今年かわせみを見ました。あじさいによくいたかたつむりがなかなか見つかりません！
	坂本委員	重点プログラム4の市民協働による生きもの調査は市民75%が生きものに関心があるということなので、もっと市報、学校、団体、住民にアピールして参加を促してもよいと思います。
	大平委員	素晴らしいプランですが、市民の参加と協力を得る方法の開発が必要だと思います。例えば自治会を利用して隣近所をまとめて引き込むようなことが考えられます。 ・「人材育成」については、定年後で暇も知恵も意欲もある高齢者を活用してはいかがでしょうか。 ・「意識高揚」についてですが、このプランの内容が市民である私に伝わってきたのが今回が初めてです。そこで、効果的なPRをするためにマスコミを利用してはいかがでしょうか。 ・「緑」の合計については、「農地」の減少が不可避であるところ、「公園・運動場」の増加には市の努力が感じられます。 ところで共生プランのパンフは、類似の内容が繰り返され、分厚い資料となっていて読むのに苦労します。もっとコンパクトにできないでしょうか。
	藤田委員	子どもの頃から生き物や自然にふれあうことは将来のネイチャーリーダーを育むことにもつながると思います。申し込み不要の自然観察会はとても良い取り組みだと思います。この自然観察会についてHPだけではなくポスターにして、街中や各公園などに掲示して広く知ってもらってはどうか。
	宿野部委員	レイアウト良好。とりわけ資料の写真は素晴らしい。やはりヴィジュアルは大切ですね。
石田委員	市民が参加できる生物多様性フォーラム、生きもの調査、ビオトープ作庭イベントなどの内容を充実させPRを積極的に行っていただきたいです。	

基本目標3 持続可能な循環型社会の構築 評価点 2.8

評価理由	川瀬委員	ごみとして処理する量の減少と市民一人あたりのごみ量の減少を評価したい。	提案	堂前委員	生ゴミ自家処置世帯の増加は、遊休農地の斡旋や市民農園、家庭菜園を奨励することと連動してできないものか。
	堂前委員	人口増にもかかわらずゴミの減量はそれなりに進んでいるが、資源化率が低いのは、施設稼働が進むまでは難しそう。		根本委員	今後、新たなバイオガス化施設が完成するということですが、処理量や再資源化するのではなく、そもそも消費後に廃棄物になりやすい商品を減らす必要があります。各自治体がまじめに処理し、資源化することは、たとえ意図してなくても、そのような商品の流通を手助けすることにもなります。廃棄物処理のコストを市民にデータで広く公開し、それだけの税金がかかっていることを示す必要があると思います。例えば、市内の小売りや消費者に、容器プラスチック等をなるべく使わずに販売するよう指導してほしいと思います。ストローなどは、一部のカフェがようやく廃止を始めました。そのような取り組みを促進するような施策をお願いいたします。
	根本委員	ゴミ処理用も資源化率も改善していない。		鳴海委員	評価指標から施設整備分は別計上とし、それ以外の努力を最優先で進めては如何か？
	鳴海委員	評価指標の達成が施設整備に大きく依存しているとのことであったが、施設整備が遅れる以上、評価指標の変更や代替政策で可能な限りの努力が求められるが、そのような取り組みがみられない。		高田委員	指標が「ゴミ」とまとめてくられているので、評価もしづらく、施策も立案しにくいと思われる。堆肥化可能な生ゴミと堆肥化を阻害するプラスチックに分けて、評価すべきである。レジ袋の有料化をスーパー、コンビニ、小売店に働きかける。公共施設へのマイボトル用給水器の設置促進、等、使い捨てプラスチックの使用抑制の具体策をもっと盛り込む方がよい。
	高田委員	ゴミの発生抑制、プラスチックのリサイクルの施策が進んでいる点は評価されるが、プラスチックごみの発生抑制のための具体策が見えない。堆肥化の推進は評価できる。		宮下委員	市民に循環型社会を意識付けるには、縛りだけではなく、「良かった」と感じさせることが必要ではないか。そのための方策を考えて頂きたい。
	宮下委員	施設整備が遅れていることが大きなマイナスと考える。数値目標の達成は現状からは見えてこない。		大久保委員	粗大ゴミの修理再生を拡大し、リサイクルするなどの粗大ゴミ減量対策を実施してはいかがでしょうか。
	大久保委員	ゴミ問題は発生者(市民)の意識付けが大切ですので、引き続き広報活動の継続をお願いいたします。		坂本委員	ペットボトル等はプラスしてお金をとり資源化に役立ててもよいと思います。
	大庭委員	相原地区、上小山田地区の資源ごみ処理施設の整備を早急におこなっていただきたい。		大平委員	市民啓発を目的とした「リサイクル広場」、「出前講座」、「情報提供」、「説明会」等々の取り組みは、意識の高い市民は別として、一般の市民は関心がないし、また参加は任意なので、あまり効果がないように思います。・「3R推進」に十分な経済的インセンティブを与えれば、イベントへの参加を半ば強制的とするような手法を開発してはいかがでしょうか。・ゴミ袋の価格も見直してみてもいかがでしょうか。・「食品ロス」対策としては、賞味期限の設定方法や流通業の1/3ルール(賞味期限の1/3を経過した食品は納入を認めず廃棄、2/3を経過したものは返品・廃棄)の見直しすべきだという議論を聞きます。・「熱回収」について、焼却・発電はヨーロッパ等では広く認められた一般的な手法ですが、日本では政治的な背景から規制されています。しかし市は地方自治体の自治権を行使して活用できるのではないのでしょうか。
	渋谷委員	【14】リサイクル広場の開催箇所、来場者が増えている。私も良く利用します。車でなくても持っていける場所が増えると良い。 【19～21】プラスチックやペットボトル等、資源化し循環型が急がれる。スーパーなどで、ペットボトルの受け入れに協力があり大きな力となっています。		藤田委員	【18】生ゴミ処理機の導入促進でダンボールコンポストの講習会は共働きの家庭にも普及できるように、平日以外にも土日開催のイベントに合わせて紹介するなど知る機会を増やせるといいと思います。
	坂本委員	生ごみのバイオガス化による資源化容器包装、プラスチックの資源化をもっと強化していただきたい。【18】、【19】を見直して推し進めていただきたいと思います。		宿野部委員	破棄物モノ創りコンテスト(ゴミから作品をつくる)。優秀作品にはゴミから作るカワイイ、ポップな賞状をあげる。
	大平委員	「ごみとして処理する量」と「資源化率」の2017年実績が2020年目標値にはほど遠いのは、取組事業が効果的でなかったためでしょうか。一方、「一人一日当たりの処理量」は順調に削減できているように見えますので、評価は普通としました。		石田委員	市民の意識向上を図るため「広報まちだ7/15号」の記事は、ごみ減量の達成方法がわかりやすく書かれていて有効だったと思います。
	藤田委員	【16】食品ロスの啓発等、各種キャンペーンの実施は年度目標を達成しており、素晴らしいと思います。【21】の資源ごみ処理施設の整備は稼働時期の遅延で2020年度の目標達成が見込めない状況であることはとても残念です。容易に推進できることではないでしょうし、ご苦労が多々あると思います。将来の資源ごみ処理施設の整備・稼働を期待しています。			
	宿野部委員	文明が発達し文化が成熟し生活が豊かになればごみ量は当然ふえるのでムキになってゴミ削減40%はやりすぎ。地球レベルで考えるなら町田が頑張っても中国、米国、カンコクがあつた程度。			
石田委員	市民の意識向上を図るための活動の結果、一人あたりのごみ量は減少していますが、2020年度までに約3万t以上減少させるためには、施設整備を着実に進めていただきたいです。				

基本目標4		良好な生活環境の創造	評価点	4.0	
評価理由	川瀬委員	居住地の周辺環境に満足している市民の割合が減少している点が問題である。	提案	川瀬委員	アンケートの「不快である項目」の点検をさらに進めてほしい。
	堂前委員	下水道普及率が上がり、高度水処理も進んできた今、多くの規準は満たされるであろうが、一方で何を対策すれば良いのかが分かりにくい。「生活風景宣言」の増加は、景観への理解を進めるところからなので、まだ成果が見えづらい。		堂前委員	さらなる水質の向上にはノンポイント汚染対策と、市民農園などでの過剰施肥対策が必要と思われる。
	根本委員	住民への居住地への周辺環境へのアンケートで、「歩道の狭さや未設置」がトップにあがっているが、それに対応する重点施策がない。重点施策にある「自転車走行空間整備延長」の目標よりもかなり低い状況です。		根本委員	容量が決まっている中で、歩道や自転車のためのスペースを路上に作るのは難しいと思いますが、車道を少し削ってでも、徒歩・自転車のスペースは必要だと考えます。
	鳴海委員	概ね良い状況に推移しているが、このような環境指標の状況は町田市のみでの取り組みの成果ではないことも謙虚に受け止める必要がある。		鳴海委員	pHが環境悪化に直結しない指標であるならば、オキシダントと同様に評価指標から外すことも考える必要がある。
	高田委員	下水道普及率の向上のための施策、高度処理施設の建設が進んでいる点は、評価される。		高田委員	高度処理水の利用と“基本目標2(2)水辺の保全・活用と水循環の健全化”を融合させた施策があるとよい。
	宮下委員	数値目標、重点施策、その他の施策、全てにおいて一定の進捗が見られることは評価出来る。但し、市民が感じる「良好な生活環境」とは道路・歩道等の整備、ライフラインの確立が大きな部分になると考える。そのことは達成目標③の結果で表れている。今後はその点を十分に事業に反映して欲しい。		大久保委員	電気自動車の普及は各施策の実現に向けて大変有効であると思いますが、今後も普及促進が必要であると考えます(災害時には蓄電池としても有効利用可)。【5】水素ステーションの誘致と同様に、電気自動車の普及に向けて電気自動車充電施設の拡大に向けた施策が必要であると考えます。
	大久保委員	”(1)大気汚染の防止に努めます-④低公害車の普及促進等を図ります”、”(3)誰もが安心して快適に暮らせる環境の実現を図ります-③自動車や、事業活動による騒音・振動問題への取り組みを進めます”、におきまして、電気自動車の普及は各施策の実現に向けて大変有効であると思います。		坂本委員	町田市の3つの河の1つに”炭”などおいてみるのは無理でしょうか。
	大庭委員	昔から町田市に住む一市民として、明らかに恩田川の水はきれいになっていると感じる。		大平委員	「自転車レーン」は設置したあと、ヨーロッパの例にみられるように、これを専用として、入ってきた歩行者等に事故責任を負わないという法的措置を伴えばより効果的となるでしょう。
	渋谷委員	【22】自転車利用環境の整備、自転車レーンが多く出来ると良い。 【24】鶴見川のクリーンセンター、水再生センターが充実することで良好な生活環境になる。		藤田委員	居住地の周辺環境についてのアンケート結果(参考資料1_P10)で「どちらともいえない」17.5%と快適でも不快でもないという回答が2割近くいらっしゃるの、その理由がわかるような質問もあとさらに良好な環境の創造につなげられると思います。
	坂本委員	大気中に含まれる物質を環境基準まで自治体で達成するのは難しいのではないかと思います。自治体でできる重点事業を満足せず、押し進めていただきたい。		宿野部委員	便利すぎる快適すぎる社会も考えものですね。5つのNOC運動、NO COOLER、NO COLLAR TV、NO CAR、NO CALL、NO CARD ですね。無理？
	大平委員	「大気」及び「河川」の水質については、すべて基準を達成しているので、今後とも継続を期待します。		石田委員	居住地の周辺環境に満足していない市民が気になっている”歩道の狭さや未設置””航空機の騒音”について改善する施策を検討してはどうでしょうか。
	藤田委員	【25】有害化学物質の適正管理・処理の指導が年度目標を達成しており、【22】、【23】、【24】、【26】がいずれも年度目標に対して順調に進行していることから評価できると思います。			
	宿野部委員	居住地の周辺環境で「不快」「大変不快である」とアンケートに答えた15.9%100人中16人の方々は多分どんな国のどんな地域のどんな街に住んでも同じ答えがかえって来る。			
石田委員	大気、水質ともに順調に取り組んでいると思います。				

基本目標5 環境に配慮した生活スタイルの定着 評価点 3.4

評価理由	川瀬委員	環境に配慮した行動を行っている市民の割合が減少している点が問題である。	川瀬委員	【29】のPRの回数を重ねてほしい。
	堂前委員	環境に配慮した行動を行っている市民が増えていないのは問題。「行動による効果を実感できない」という市民が多いが、やりがいを実感しやすい農作業、緑地保全、清掃イベント、子ども向けに市民が行う環境教育、フリーマーケットなどのイベントが知られていないこともあるのかもしれない。	堂前委員	環境学習イベントや環境イベントは、参加者の満足度は高いが、まだまだ存在を知られていない。参加者から「良いものなんだからもっとしっかり広報して欲しい」という意見が出るのが少なくない。もっと広く広報する工夫が欲しい。
	根本委員	環境配慮行動をとっている市民の割合はむしろ減ってしまっている。理由の1番目には「時間がない」、2番目には「効果が実感できない」とあります。	根本委員	最新の行動経済学における研究でも、人々の公共的な行動を引き出すための条件には、「その効果がわかりやすい」こと、「自分への利益もたらされること」があるとわかってきています。そこで、例えば、スーパーでのプラスチック容器による販売(野菜を発砲トレーやプラスチック容器で販売など)を減らして、回収や処理のための市の財政支出がどのくらい減るか、など、効果が「お金」でわかるようにしてはどうでしょうか。正確な評価や表示にするためには工夫も必要だと思いますが、市民が環境対策に協力するきっかけになるかもしれません。
	鳴海委員	目標1と同じく	鳴海委員	評価指標②は基準年が100%であったところ、2021年度も同じ値を”維持する”のであって、100%実施を”目指す”というのは言葉遣いがおかしいと思います。
	高田委員	子ども向け環境講座やプログラムの実施が進んでいる点は評価される。エコページ等、情報発信が遅れている。ゴミ減量の地域活動が、食品廃棄物の減量とリサイクル中心となっている。使い捨てプラスチックの削減を行わないとゴミ減量が進まない。	高田委員	使い捨てプラスチックの削減のための企画をもっと増やすとよい。生ゴミの堆肥化等、農業者との協働と環境学習が融合した企画があるとよい。
	宮下委員	達成目標の進捗では市内小中学校での環境教育や環境配慮活動は100%が続き、それに引き替え市民の配慮活動の減少していることは、行政サイドと市民サイドでの意識のギャップから来るものの最たるものであると考えられる。このギャップを埋めることができれば「評価できる」にはならない。「市民理解の醸成⇒市民の自主的行動」に結び付ける活動が必要である。	宮下委員	アンケートによる回答でもあるように「行動による効果を実感できない」が市民の本音ではないだろうか。そのために行政サイドとして何をすべきか、どう行動をとるべきかを考えなければならないと考える。
	大久保委員	引き続き市が中心となって情報発信や環境学習・活動が出来る場を提供していただきたいと思います。	大久保委員	・【28】子ども向け環境講座のプログラムの企画・実施について、今後は、将来を担う子供たちへ節電(省エネ)に関する環境教育の実施はいかがでしょうか。(公立小中学校での授業などで)
	大庭委員	ゴミの分別など環境に配慮した教育・学習は成果が出ていると感じる。	坂本委員	エコ宣言参加事業者をふやしていく必要があると思われる。
	渋谷委員	【27】【28】環境副読本、環境講座、その他学校への講座。子供達に環境に関心をもってもらうように、いろいろ試みている事を知り、そして関心度も上がってきているようで大変良い事です。	大平委員	市民が望む生活環境を得るには、行政任せではいけないという認識が原点であるべきと考えます。
	坂本委員	環境に配慮した行動学習は増加傾向ですが、まだ市民の意識は低いように思います。【7】から【31】までをもっと押し進めていただきたい。	藤田委員	アンケート結果(参考資料1_P6,7)で「行動による効果を実感できない」に対し、リサイクル効果に応じて年に1回、指定ゴミ袋を還元するのはどうでしょうか。例えば、「リサイクルが前年よりも何%増加したので指定ゴミ袋を〇枚配布します。」というように貢献した実感があれば、積極的に環境に配慮した生活をめざせると思います。
大平委員	「市民啓発」や「学校教育」は、イベント等を実施したことのみで評価すべきでなく、効果が得られたかどうかを重要だと思います。ただし、効果を測定するのが困難ななかで、少なくともイベントへの参加割合の低いことが大きな課題であると思います。	宿野部委員	ロックバンド「外道」を呼んで野外ライブ！コピーは「あの伝説共が町田に帰って来た！」メンバーは町田出身影響大。	
藤田委員	達成目標②は達成状況が100%で、市内の小中学校の環境学習が定着している点が評価できると思います。達成目標③は環境学習や環境に関するイベントへの参加率が増加しているものの、達成目標①の環境に配慮した行動をとっている市民の割合が減少していることが懸念されます。	石田委員	環境に配慮した行動を行っている市民の割合の減少とまちだエコ宣言制度への参加事業者数の減少は今後の課題ですが、市内の小中学校における環境学習は、全校で継続的に実施され、環境学習や環境に関するイベントの参加率は増加傾向にありますので、順調に取り組みが進んでいると思います。	
宿野部委員	エコ宣言制度エコフェスタ活動報告をHP紹介、年度目標達成には至りませんでした(正直で好感持た。)			

全体

提案	鳴海委員	・大きな底上げにつなげるためには、元々のエコマニアだけではなく、広く一般の方を巻き込むような政策や事業実施が必要ですが、そのような活動が積極的に展開されているようには読み取れません。 ・指標の変化の因果関係を施策導入と絡めて考察されるとよりわかりやすい資料になるかと思えます。 参考資料2はあくまでも2017年度の進捗状況をまとめた資料であり、この資料に掲載する進捗度(☆マーク)は年度内の進捗状況を表現し、資料3と整合させた方が誤解が少ないと思います。
	大平委員	目標の設定、その達成のための事業、評価の方法等々を市と一部の活動家で決めるのではなく、広範な市民の参加で議論、決定、実施、評価するシステムを開発できないでしょうか。環境審議会の役割はそのようなシステムの開発にアイデアを提供することではないでしょうか。

評価理由の下線部: 資料3にとりまとめる際にベースとしたもの